

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道6号 <small>じょうぼん</small> 常磐バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：福島県いわき市勿来町四沢 至：福島県いわき市平下神谷	延長	27.7km		
事業概要	<p>一般国道6号は、東京都を起点とし土浦、水戸、いわきの各市を経て仙台市へ至る延長約433kmの主要な幹線道路である。 常磐バイパスは、福島県いわき市内を通過する延長27.7kmの4車線道路である。</p>				
S41年度事業化	S50年度都市計画決定 (H-年度変更)	S43年度用地着手	S44年度工事着手		
全体事業費	約1,040億円	事業進捗率	93%	供用済延長	16.8km
計画交通量	29,400台/日				
費用対効果 分析結果	<p>B/C (事業全体) 1.5 B/C (残事業) 5.8</p>	<p>総費用 (残事業)/ (事業全体) 90億円/2,657億円 事業費：60億円/2,541億円 維持管理費 31億円/ 116億円</p>	<p>総便益 (残事業)/ (事業全体) 522億円/3,991億円 走行時間短縮便益：472億円/3,498億円 走行経費減少便益 15億円/ 241億円 交通事故減少便益：35億円/ 252億円</p>	<p>基準年 平成26年</p>	
感度分析の結果	<p>【事業全体】 交通量：B/C=1.3~1.8(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.5~1.5(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.4~1.6(事業期間±20%) 【残事業】 B/C= 4.4~7.4(交通量 ±10%) B/C= 5.4~6.2(事業費 ±10%) B/C= 5.6~5.9(事業期間±20%)</p>				
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の渋滞損失時間：414万人・時間/年、渋滞損失削減率：約7割削減 ②物流効率化の支援 ・重要港湾である小名浜港へのアクセス性が向上（いわき駅～小名浜港 現況：28分） ③安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス性が向上 （勿来地区～いわき市立総合磐城共立病院救命救急センター 現況：29分）</p>				
関係する地方公共団体等の意見	<p>○福島県知事の意見 国の対応方針（原案）については、異議ありません。 なお、東日本大震災からの復興を支援するため、早期完成に努めてください。</p> <p>○以下の団体等から、常磐バイパスの整備促進について要望あり ・福島県 ・いわき市 ・一般国道6号常磐バイパス改築工事促進期成同盟会 ・常磐三市町懇談会 ・常磐三市議会議長会</p>				
事業評価監視委員会の意見	<p>対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である</p>				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>・平成26年4月にいわき市が小名浜港背後地（都市センターゾーン）開発事業計画を策定</p>				
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>・昭和41年度事業化、用地進捗率100%、事業進捗率93%（平成26年3月末時点） ・昭和56年度まで：いわき市佐糠町碓田～いわき市泉町下川間 延長6.0km（2/4）部分開通 ・平成12年度まで：いわき市勿来町四沢～いわき市平下神谷間 延長27.7km（2/4）開通 ・平成18年度まで：いわき市泉町滝尻～いわき市平下荒川間 延長8.4km（4/4）部分開通</p>				

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない
- ・平成26年度：いわき市泉町下川～いわき市泉町滝尻間 延長1.3km (4/4) 開通予定
- ・平成27年度：いわき市錦町雷～いわき市佐糠町碓田 延長2.8km (4/4) 開通予定
- ・平成28年度：いわき市勿来町四沢～いわき市錦町雷 延長0.8km (4/4) 開通予定
- ・平成29年度：全線4車線開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・高減衰ゴム支承の採用

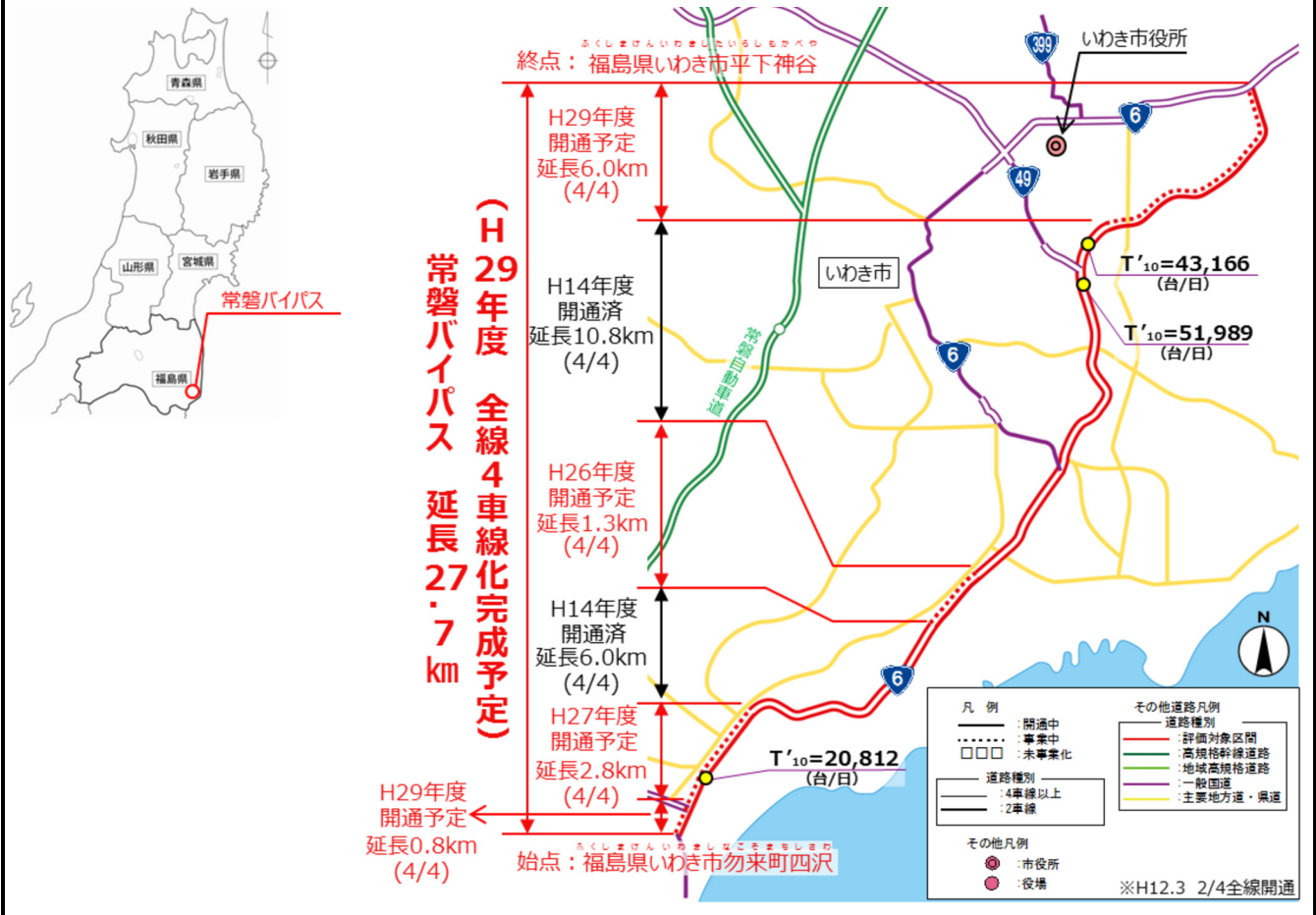
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。